



## I. 導入

おはようございます。今日は、使徒2章で、弟子たちが劇的な方法で聖霊による洗礼を受けたところを見ていきたいと思えます。これは、私たちへの重要なメッセージを含む力強い聖書箇所です。しかし、この箇所を読む前に覚えていただきたいことがあります。それは、聖霊は、聖書を一貫して働いておられるということです。使徒2章は、聖霊の特別な注ぎについて記録していますが、それは聖霊の働きがここで始まったとか終わったことを意味するものではありません。

聖霊は、聖書の一番初めの2節目で初めて登場します。**創世記 1:2**はこう語ります。「**地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。**」創世記には、天地創造における御霊の働きについて詳細を述べていませんが、初めから御霊がおられたことが明らかにされています。また、活動力があり力強く、あらゆるものを生み出し、再生させ、世界に形と秩序をもたらしておられることも明らかです。

多くの場合、聖霊は縁の下の力持ちといった存在です。しかし、私たちが気づくかどうかに関わらず、御霊はいつも盛んに神の働きをしておられます。聖霊は、聖書の最初のページで登場しますが、最後のページでもまだ活躍しています。そこでは、聖霊はすべての人々に、来て神との交わりを持つようにと招いています。**黙示録 22:17**「**“霊”と花嫁とが言う。「来てください。」これを聞く者も言うがよい、「来てください」と。渇いている者は来るがよい。命の水が欲しい者は、価なしに飲むがよい。**」

聖霊は、聖書と歴史を一貫して働いておられます。その働きは天地創造に始まり、今日の教会のうちに続いています。御霊はたいいてい、見えないところで静かに働いておられますが、今日の聖書箇所のように御霊が脚光を浴びる場面もいくつかあります。このようなことを念頭に、使徒言行録2章1-21節を読んでいきましょう。

## II. 聖書朗読 使徒言行録 2:1-21、新共同訳

2:1 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、 2:2 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。 2:3 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。 2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。 2:5 さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、 2:6 この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。 2:7 人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。 2:8 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。 2:9 わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者があり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、 2:10 フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、 2:11 ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」 2:12 人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。 2:13 しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔って

いるのだ」と言って、あざける者もいた。2:14 すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。「ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください。 2:15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考えているように、酒に酔っているわけではありません。2:16 そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです。2:17 『神は言われる。終わりの時に、／わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、／若者は幻を見、老人は夢を見る。 2:18 わたしの僕やはしたためにも、／そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。 2:19 上では、天に不思議な業を、／下では、地に徴を示そう。血と火と立ちこめる煙が、それだ。 2:20 主の偉大な輝かしい日が来る前に、／太陽は暗くなり、／月は血のように赤くなる。 2:21 主の名を呼び求める者は皆、救われる。』

### III. 教え

私たちの主イエスは、過越しの時期に十字架にかかられました。そして使徒2:1は聖霊が五旬祭の頃に下られたと言っています。五旬祭は、過越しから 50 日後で、ユダヤ暦ではシャブオットとして知られる収穫の祭りです。七週の祭り、または初穂の日とも呼ばれます。この祭りは、イスラエル三大祭のひとつであり、すべての成人男性がエルサレムで参加することが義務付けられていました。ですから、この時期は、エルサレムはたくさんの国からやってきたユダヤ人であふれかえっていたことでしょう。過越しは、イスラエルの民がエジプトでの奴隷の身分から解放された出エジプトを記念する行事です。そして、私たちが五旬祭と呼んでいるシャブオットは、



モーセがシナイ山から十戒を持って降りてきた記念日です。

これらのことを考えると、主イエスの死とよみがえりが新しい過越しのしるしであることがわかります。そのわざによって、私たちが罪と死に対する奴隷の身分から導き出されたからです。そして、五旬祭は、石ではなく世界中にいる信徒たちの心に刻まれた新しい律法が与えられたしるしです。五旬祭は、エレミヤのことばを成就しています。エレミヤ 31:33「しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」

弟子たちはみなひとつの場所に集まっていました。それはおそらく、最後の晩餐を共にした場所、そして使徒 1 章のできごとが起こった場所と同じ家の中です。使徒 1:14 には、彼らがひたすら祈っていたと書いてあったので、聖霊が注がれた時も祈っていたに違いありません。激しい風が吹いて、炎の舌のようなものが一人ひとりの上にとどまり、彼らはみな聖霊に満たされて他の国々の言葉で話し出したのです。これは、間違いなく彼らが待っていた聖霊による洗礼でした。



皆さん、洗礼者ヨハネをメシヤかと思った人がいた時のことを覚えておられますか。ヨハネはルカ 3:16 でこのように答えています。「そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」ヨハネは、聖霊による洗礼について預言的に語りました。メシヤであるイエスが来て、弟子たちにこの洗礼を授けられると確信をもって宣言したのです。イエスは、この約束について、使徒 1:4-5 で改めて主張しています。「そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。『エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。1:5 ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである。』」

聖霊が下られたとき、弟子たちは他の国々の言葉で神の偉大な業を語り始めました。人々は何が起こっているのかと集まり、弟子たちが多くの言葉で語っているのを聞きました。そして、そこにいた人々は自分の母国語で神の偉大な業について聞いたのです。エルサレムに集まったあらゆる国の代表者たちに福音が宣べ伝えられたことは、大宣教命令の成就の幕開けです。イエスは、これについても使徒 1:8 で語られました。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

使徒 2 章ですでに、弟子たちはエルサレムに集まったあらゆる国の代表者たちに大胆に力強く福音を宣べ伝えています。しかし、これは始まりに過ぎません。これ以降、弟子たちは各地に出て行って福音を語りました。けれども、最初の 120 人の弟子たちが世界中のすべての国の人々に到達することができないのは、容易にわかります。福音を地の果てまで宣べ伝える働きは、五旬祭に始まり、今日に至るまで続いていることを私たちは知っています。そして、もし聖霊が力を与えてくださる働きがまだ終わっていないなら、聖霊は今日においてもこの働きのために弟子たちに力を注ぎ続けてくださるはずで

す。聖霊のバプテスマは一度きりのできごとだと言う神学者たちもいます。しかし、使徒 11 章で、ペトロが異邦人にむけて福音を語った経験について言ったことを見てください。使徒 11:15-17 「わたしが話しだすと、聖霊が最初わたしたちの上に降ったように、彼らの上にも降ったのです。11:16 そのとき、わたしは、『ヨハネは水で洗礼を受けたが、あなたがたは聖霊によって洗礼を受ける』と言っておられた主の言葉を思い出しました。11:17 こうして、主イエス・キリストを信じるようになったわたしたちに与えてくださったのと同じ賜物を、神が彼らにもお与えになったのなら、わたしのような者が、神がそうなさるのをどうして妨げることができたのでしょうか。」ペトロは、異邦人も聖霊による洗礼を受けたとはっきり語っています。ですから、使徒 2 章だけで起こったという主張は不可能に思えます。

聖霊のバプテスマは、イエスを初めて信じたときに聖霊を受けるのと同じことだと言う神学者たちもいます。しかし、使徒 2 章以前に、使徒たちがすでに信徒であり、聖霊を受けていたとみことばは示しています。ヨハネ 20:21-22 にこのできごとが記録されています。「イエスは重ねて言われた。『あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。』20:22 そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい。』」

もし使徒たちが、使徒 2 章以前に、イエスをすでに信じており、聖霊を受けていたのであれば、使徒 2 章は、弟子たちが 2 度目のたいへん力強い聖霊体験をした記録だということになります。私たちが信仰を持った後、再び聖霊体験をするという考えを否定する神学者もいますが、使徒言行録は明らかにそれを教えています。私個人の体験もそうです。

1988 年春、カリフォルニア州のカルバリチャペル・オーシャンサイドで私はイエスを主であり救い主として信じました。そのとき、私は途方もなく大きな主の恵みを体験し、私の罪が赦されたことを実感しました。しかし、それでもいろいろな疑問がありました。そのひとつは、神が今日の教会でも奇跡をおこなっておられるのかということでした。とくに、聖霊は今でも異言や預言といった御霊の賜物を与えられるのかを知りたいと思いました。それで、受洗して数週間後、ラルフ・ウッド牧師に電話をして、こういうことを話したいので会ってほしいと頼みました。牧師は、教会の事務所に来ると言ってくれました。しかし、こうも言われました。「ここに来て私に質問する前に、自分で祈って主に直接聞いてくださいね。」

これからお話しすることは、どこでも話したりしません。それは個人的なことですし、気がおかしいと人に思われたくないからです。けれども、私の証の重



要な部分ですし、今は適切な機会だと思うので、皆さんにお分かちします。私は物事を先に延ばす悪いくせがあり、今もそれで困っています。というわけで、教会の事務所に向かって高速 78 号線を車で走っている最中に、ラルフ牧師の言葉を思い出しました。牧師と会う前に主にこのことについて祈り求めなければならないことです。私は思いました。大丈夫、祈りながら運転すればいい、と。祈りながら車の運転をしたことがありますか。いけないわけではありませんが、気をつけてください。

それで、車の運転をしながら、祈りました。主は今でも聖霊によって人々に洗礼を授け、奇跡を成しておられるのかと尋ねました。数分後、非常に強い臨在を感じ始めました。聖霊と、もしかしたら御使いだったかもしれません。その臨在とともに、このような言葉が聞こえ始めました。耳の中ではなく、直接脳に語る声です。その声は言いました。「私につづいて言いなさい。『ソレモン ビソン ペッポン サリ、アシュティレモン ペッポン サリ アレモン アンシャング・・・』」その声に続いて私が言い始めるやいなや、言葉が口からあふれ始めました。その時点では、もう続いて言っているのではなく、自分の知らない言語で長い祈りをしていました。祈っていると、喜びの涙があふれ出し、一旦車を道の端に止めなくてはならないほどでした。自分をコントロールできなくなっていたのではありません。口をつぐもうとすればできたのですが、そうしなくなかったのです。ずっと祈り、主を賛美していた気持ちでした。一時間ほどして、教会の事務所についたとき、ラルフ牧師ととてもよい会話ができました。しかし、主はすでに私の主な疑問に答えてくださっていました。そうです。主は今も奇跡をおこなっておられます。御霊の賜物を与えることもそのひとつです。

これは、私に起こった神との超自然的な体験のひとつです。これらの体験は、私の信仰の土台ではありません。私の信仰の土台は、神のみことばにあらわされているイエス・キリストの良き知らせです。しかし、私に起こった超自然的な体験は、信仰を確かに強めてくれましたし、これらの体験なしには得られなかったであろう平安と喜びも与えてくれました。

今後、ここにいたくさんの方が神の聖霊との超自然的な体験をされるようにと祈ります。御霊の賜物を祈り求めることは良いことだと思います。しかし、神聖な出会いは大概、奇跡ではなく神ご自身を求めるときに与えられるものだとも思います。私たちの焦点は、祈りと日常生活を通して、神を知り、神に近づくことであるべきです。そうすれば、神とともにいることで、超自然的な体験を自然にするようになるでしょう。

**使徒 2:3-4** をもう一度見てみましょう。「そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。 **2:4** すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。」これは、実際の炎の舌ではありません。それは、炎の舌のように見えるものでした。著者がそれ以外の言葉で表現できない何かだったのです。彼らは皆、御霊に満たされて、他の国の言葉で話し出しました。しかし、聖霊に満たされた人は誰でも他の国の言葉で話すという意味ではありません。

**コリント第一 12:7-11** を見てみましょう。「**12:7** 一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。 **12:8** ある人には“霊”によって知恵の言葉、ある人には同じ“霊”によって知識の言葉が与えられ、 **12:9** ある人にはその同じ“霊”によって信仰、ある人にはこの唯一の“霊”によって病気をいやす力、 **12:10** ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解釈する力が与えられています。 **12:11** これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。」

賜物にはいろいろあります。そして、御霊は一人ひとりに御霊の望むままに賜物を与えてくださるのです。ですから、みんなが異言を話すことは期待できません。また、異言を語る人が他のクリスチャンより特別だとか優れているとも考えられません。それは多くの賜物のひとつに過ぎ

ないのです。私が知る中で、本当に御霊に満たされているクリスチャンで異言を語らない人もいます。聖霊は、その完全な知恵のうちに決められたことに従い、一人ひとりに合った賜物を与えてくださるのです。

一方、聖霊の満たしは、求めるならすべてのクリスチャンに与えられるものだと思います。ある人には、一時にやってきます。またある人には徐々に与えられます。私がコップに水をいっぱい入れようと思ったら、一挙にどばっと注ぐこともできますし、ゆっくり静かに注ぐこともできます。同じように、御霊も、ある人を一挙に劇的に満たすこともできますし、ある人をイエスとともに歩むうちに徐々に満たすこともできるでしょう。しかし、ゆっくり満たされようが、一挙に満たされようが、役立つクリスチャンでいたいと思うなら、神の御霊に満たされなければならないのです。



福音は普遍的です。すべての人に当てはまります。**使徒 2:21** は、こう語ります。「主の名を呼び求める者は皆、救われる。」聖霊の満たしもまた、すべての人に当てはまることだと思います。**使徒 2:17-18** で、ペテロはヨエル書 2 章を引用してこう言いました。「神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。**2:18** わたしの僕やはしのためにも、そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。」

福音と同じく、これも普遍的です。

#### IV. 結論

私たちは、心の中に、そして人生に、聖霊をもっと必要としています。けれども、それを阻害するものがあります。それは、私たちの心も人生も、この世のいろいろなものでいっぱいになっていて、聖霊の入るすき間がないことです。皆さん、この世の一時的なもの、満足を与えてくれない持続しないものにノーと言い、主を求め、主に近づきましょう。そうすれば、御霊は私たちのところにも来てくださり、満たしてくださると思います。では、最後に預言者エレミヤのことばを読んで終わりたいと思います。エレミヤ **29:11-13** 「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。 **29:12** そのとき、あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。 **29:13** わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めるなら、」祈りましょう。

#### V. 祈り

恵み深い天の父なる主よ、

今朝、私たちはあなたの御前で告白します。私たちは罪びとで、毎日赦しが必要です。あなたのあわれみを私たちのうちに新しくしてください。あなたのすばらしい恵みをあなたの民に注いでください。あなたが備えてくださるすべてのものに感謝します。何よりも、罪の赦しを感謝いたします。イエス・キリストの十字架により備えてくださったすばらしい救いを感謝します。主よ、あなたの喜ばれないこの世のもの、あなたに近づくのを邪魔するものを私たちの心と人生から捨てることができるように助けてください。あなたの聖なる御名をたたえます。あなたの尽きない愛を感謝します。あなたの御前に出て、あなたの御力、知恵、そしてご臨在が必要であることを認めます。主よ、私たちは乾いており、冷たく、進歩しない、鈍い者です。どうか、あなたの聖霊の風と火を送り、私たちの信仰を新しくしてください。あなたの御霊で満たし、私たちを新しくし、あなたの働きのための力を与えてください。イエスのきよい御名によって祈ります。アーメン。